

平成31年 第1回

宮崎市教育委員会（定例会）

会 議 録

平成31年 第1回宮崎市教育委員会定例会会議録

- 1 日 時 平成31年1月23日(水) 13:40～15:00
- 2 場 所 教育委員会室
- 3 出席者 【教育長・教育委員】
西田教育長、今門代表教育委員、畠山委員、江草委員、柳田委員
【事務局】
河野教育局長
(企画総務課) 富田補佐、河野主幹、安藤係長、
田中主査、黒田主任主事、三角主事
(学校施設課) 大住課長、年増補佐
(学校教育課) 押川課長、高牟禮補佐、串間補佐
(教育情報研修センター) 荒武所長、平山次長
(生涯学習課) 黒岩課長、矢野補佐
(保健給食課) 中野課長、和田補佐
(文化財課) 富永課長、甲斐補佐

4 報 告

番号	件名	説明者
報告第1号	事故等の報告について	学校教育課長

西田教育長	<p>それでは定刻になりましたので、ただ今から、第1回教育委員会定例会を開催いたします。本日の傍聴者はありません。</p> <p>それでは、会次第「2 会議録署名人の指名」です。本日の会議録の署名人は、私、西田と島山教育委員を指名させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。</p>
委員	異議なし。
西田教育長	<p>それでは、会次第「3 行事報告等」でございます。1ページをお開きください。まず、「(1) 教育長報告」です。最初に、1月9日(水)・10日(木)にございました「文部科学省訪問・平成30年度中核市教育長会第2回役員会・総会・研修会」について、ご報告いたします。2ページをご覧ください。10日に中核市教育長会があり、その前日に文部科学省初等中等教育局の永山局長にお会いしました。宮崎市佐土原町のご出身でございます。お祝いの言葉を述べ、宮崎市の現状についてお話したところです。永山初等中等教育局長からは、ICT環境整備の充実に力を入れてほしいとお話がありました。本年度、本市でもICT環境整備計画が5ヵ年計画で始まりますので、今後予算にどのように反映されるか、頑張っていきたいとお話したところです。10日は、中核市教育長会役員会後にプロジェクト会議がございました。内容は、中核市への人事権移譲についてです。人事権移譲について、検討が活発な時期もありましたが、現在は落ち着いた状況です。このプロジェクト会議は、人事権移譲を推進するという会議ではなく、メリットやデメリットの研究をしっかりと行う会議という位置付けであり、今回の会議では、現在、人事権移譲に一番力を入れている島根県松江市から進捗状況について報告がありました。ただ、島根県内の他市町村は反対ということで、なかなか前進していないようです。次に、研修会についてです。研修会のテーマは、「未来の教室とE d t e c h」です。経済産業省商務サービスグループ浅野大介サービス政策課長兼教育産業室長から説明を受けましたが、非常にインパクトのあるお話でした。特に、文部科学省ではないという点も一つのポイントで、浅野サービス政策課長は教育産業室長でもいらっしゃるの、学校の良さと教育産業など塾の良さ、こういったものを取り入れていった場合に未来の教室とはどのようなものだろうかという研究について、お話がありました。はっきり分かっていることとして、今後、塾などは子どもに対する個別化が進むということでした。また、例えば同じ学級集団にいたとしても個別化が進んでいくということでした。今後、個別化が進むことで異学年集団も当然増えてくると感じたところです。その他、現在の学校における学習は、それぞれの教科の学習がほとんどであり、総合的な学習というものは一部です。ただ説明の中では今後、教科の学習はICT機器等を選びながら、自分の到達度に応じて個別学習をしていくとともに時間を減らし、総合的な学習など教科横断的な授業を増やしていくというイメージをもっていらっしゃるようでした。つまり、それぞれの教科の学習は、ひとつの筋肉を育てるということになります。ただ、様々な物事を作り上げる、イノベーションを起こすような人材を育てるためには、個別の筋肉を組み合わせることが必要であり、教育も変わっていかねばならないということです。今後、注目していかなければいけないと感じました。</p> <p>続いて、3ページになります。「B & G 全国サミット」が行われ、</p>

	<p>市長と参加しました。日本財団の笹川会長から日本と世界の現状ということで、日本人はもっと自信をもって世界に対して役割を果たしていくべきであり、そのような教育をしっかりと行ってほしいという講演がございました。その他、海洋センターを生かした取組や財団の説明、優良海洋センターの表彰がございました。</p> <p>1 ページにお戻りください。「(2) 委員報告」は記載のとおりでございます。次に、「(3) 教育局長報告」でございます。12月27日(木)に開催しました「善行児童生徒表彰選考会」について、河野教育局長から報告をお願いします。</p>
河野教育局長	<p>12月27日(木)に開催しました善行児童生徒表彰選考会について、ご報告いたします。善行児童生徒は、本市に在住又は在学する善行のあった児童生徒で、市内の小中学校はもちろん、国公立、私立の小中学校からも推薦いただき、教育委員会事務局内に設置される表彰選考会で表彰者を決定するもので、「宮崎市教育振興基金」を活用し、実施している事業でございます。本年度の表彰件数は、110件、内訳は、個人の表彰が109名、団体の表彰が1団体でございます。表彰式は、各学校において全校集会等で行われ、校長から賞状や記念品をお渡しいただく予定です。表彰者の詳細については、後日、冊子をお配りいたします。報告は以上でございます。</p>
西田教育長	<p>ありがとうございます。「(4) 各課行事報告等」は、記載のとおりでございます。先日、プログラミング教育シンポジウムが宮崎大学で行われました。これについては、宮崎市が大学の研究へ助成するという事業の中で宮崎大学の教育学部がプログラミング教育に手を挙げてくださいました。大学との連携を行っているところです。今回のシンポジウムでは、パネルディスカッションにパネリストとして、押川学校教育課長が参加されました。説明をお願いします。</p>
押川学校教育課長	<p>1月17日(木)に宮崎大学において、プログラミング教育シンポジウムが行われました。プログラミング教育の第一人者でいらっしゃいます東北大学の堀田教授にご講演いただきました。その中で、やはりプログラミング教育は以前の情報教育とは異なるということでした。確かに、コンピューターのプログラミングができるようになることは一つの大事な目標ですが、プログラミング的思考、いわゆる課題が何か、問題が何か、それに向かってどのように解決していけばよいかというプロセスを自分の中でイメージし、周りの人とも協調しながら問題を解決していく能力を培っていくために必要であるということでした。普段の授業でもそのような力を培うことはできますが、実際にコンピューターを使い、プログラミングすることでそのプロセスを可視化し、そして成功していくという体験を通しながら、プログラミング的思考も高めていく必要があります。また、一つの方法として、算数・数学・理科・総合的な学習など教科の中で学んだことを他の教科でも生かしながら、プログラミング的思考を養い、プログラミング教育を進めていかななくてはならないというお話がありました。その後のシンポジウムでは、現在プログラミング教育に取り組まれている宮崎市の主幹教諭などから理科算数等で各学校でそれぞれ実践し、宮崎大学と連携している取組の事例発表がありました。私からは、現在、教育情報研修センターで、研究員の方々が中心となってこのプログラミング教育について研究を進められていますので、その取組や今後、教育委員会とし</p>

	<p>て、このプログラミング教育と併せて進めたい教育の方向性についてお話をしました。具体的には、子どもたちが文章をしっかり読み解く、読解力を身に付けなければ、プログラミング的思考を高めようと思っても、何を問われているのか、何が課題なのかというところが読み取れないため、意味がなくなってしまう。そのことから、読解力をしっかりと育てるような教育を来年度取り組んでいきたいという話をさせていただいたところでした。</p>
西田教育長	<p>荒武教育情報研修センター所長から説明をお願いします。</p>
荒武教育情報研修センター所長	<p>教育情報研修センターとして、現在、プログラミング的思考をどのように子どもたちに身に付けさせるかということ、タブレットの活用の仕方を研究しております。ICTに関してですが、現在、学校で先生方が使っているパソコンが来年の1月にサポート終了となりますことから、来年の1月から新しいパソコンを使用できるよう予算要求をしているところです。タブレットについては、来年度中の導入は困難な状況ですが、再来年度には、導入していきたいということで現在進めています。子どもたちにとって、ICT教育は、大変重要でありますので、じっくりと取り組んでいきたいと思っております。</p>
西田教育長	<p>それでは、「4 議事」に入らせていただきます。4ページをご覧ください。本日、議案はございません。報告が1件でございます。報告第1号「事故等の報告について」でございます。こちらについては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項により、非公開としたいと思っておりますが、いかがでしょうか。</p>
委員	<p>異議なし。</p>
西田西田教育長	<p>それでは、ここで非公開を解除します。次に、会次第「5 その他」に移らせていただきます。委員の皆さまから、先週の先進地視察研修についてご感想などをお願いします。</p>
今門代表教育委員	<p>先進地視察研修に行かせていただきました。杉並区では、コミュニティ・スクールについて、お話を聞かせていただきました。年間2校から4校を指定し、コミュニティ・スクールの運営が上手くいくよう教育委員会がサポートしているということでした。コミュニティ・スクールの運営には、かなりのサポートと予算が必要だと思ったところです。ただ、予算のかからない部分で、宮崎市にも学校支援組織をつくっていただければと思いました。</p> <p>また、夜間中学は80代の方が学んでいらっしゃる姿を見て、「学ぶ」というのは、何なのかと改めて感じたところです。実は、今回の視察研修の前に、山田洋次監督の「学校」という夜間中学校が舞台の映画を見て、自分なりに予習して参加しました。実際の夜間中学を見てみますとイメージと近い感じがありました。また、外国籍の生徒が多くいて、日本語を学んでいる様子でした。視察先の三宿中学校で校長先生とお会いした際に、お話の中で、京都の洛友中学校が出てきました。洛友中学校は昼間部と夜間部があるそうです。昼間部は、不登校の子どもを対象としている学校、夜間部が一般の夜間中学校ということでした。宮崎市の場合は、不登校で卒業はしたものの、学び直しをしたいという方を対象にした夜間中学を考えた際に、洛友中学校の取組が参考になるのではないかと思います。大変、勉強になりました。</p>
江草教育委員	<p>杉並区のコミュニティ・スクールでは、近隣の大学の学生達にボランティアで学校に入ってもらっているということでした。先生方</p>

	<p>にとってもサポートになりますし、学生にとっても良い経験なるのではないかと思いました。また、杉並区教育委員会でいただいた冊子の中に企業と連携した取組が紹介されていました。ここまで努力をされているということに感激しました。夜間中学に関しては、とにかく先生方がパワフルでした。先生方の意欲も高く、公募で採用しているという点に納得したところです。また、生徒の生き生きとしている姿が印象的でした。</p>
<p>畠山教育委員</p>	<p>先進地視察研修では、大変刺激を受けました。杉並区教育委員会では、学校支援課長、課長代理が詳しく説明してくださいました。課長代理の方は、平成13年から18年間、コミュニティ・スクールの基礎作りや地域との連携など専門的に取り組まれてきたということでした。平成33年度には、全ての杉並区立の学校がコミュニティ・スクールに指定されるということで、熱い思いで取り組まれていらっしゃる事が印象的でした。また、説明の中で「一石二鳥」という言葉が心に響きました。地域の方が犬の散歩や庭の掃除をする時間を子どもたちの登下校に合わせてもらうことで、子どもたちの見守りも無理のない範囲で、できることをしてもらっているということでした。その後、宮崎市内でも同じような取組をされている地域があると西田教育長からお伺いし、このようにすぐにでもできる地域との連携を広めていかなければならないと思ったところです。夜間中学については、前日に実際の授業を拝見し、翌日に校長先生からお話を聞くという二本立ての行程でした。外国籍や高齢の方、不登校だった方など非常に多種多様な生徒に対して、先生方が大変優しく寄り添い、指導されている姿が印象的でした。大変、有意義な視察でした。</p>
<p>柳田教育委員</p>	<p>今回、大変勉強になりました。コミュニティ・スクールや夜間中学は、やはり実際に見てみないと分からないことが多くありました。コミュニティ・スクールについては、何をもって成果とするのかということについて、お話がありました。統計的な数字を見ても子どもたちの姿に大きな変化はでていないということでしたが、校長先生がリーダーシップをとり、地域の意見を取り込みながら、学校経営を進めやすくなっていることは成果であると言えるという説明をいただきました。やはり、やってみながら、考えながら着々と進められていると感じました。夜間中学で、特に心に残ったことは、「夜間中学を設置してみて、初めてわかるニーズがある。」と校長先生がおっしゃっていたことです。見学した学校は、外国籍の方がとても多く、その方々にとって、日本語の習得が最大の目標になり、習得した段階で学校に来なくなっていることもあるということでした。その生徒のニーズは達成されたので、それは当然であると考えなくてはならない部分があります。しかし、その点に関して、義務教育という枠組みの中で考えた際にどうなのか、もし宮崎に夜間中学が置かれた場合、どのようなニーズがあるのかなど様々な問題があると思いました。制度設計をしっかりと行いつつ、ニーズを明確にしていくことが大切です。ただ、ニーズを絞ることにこだわるとなかなか始められないこともあります。考えながら進めるというやり方は、非常に大変なことだと思いますが、先進地ではきちんと進めているのだと改めて感じたところでした。</p>
<p>西田教育長</p>	<p>本当に刺激を受けた視察でした。</p>
<p>今門代表教育委員</p>	<p>コミュニティ・スクールに関して、学校がまた忙しくなるという</p>

	<p>イメージがありましたが、実際にお話を伺いますと学校運営協議会では基本的に学校は説明せず、校長先生が話をお聞きする場ということでした。議事録や資料の作成も学校運営協議会委員の方々がしますので、学校の負担感はないということが印象に残りました。また、学校をサポートする教育委員会の方々は、指導主事ではなく、事務担当の職員ということでした。視察をしました夜間中学についてですが、生徒が61名いますが、不登校はいないということでした。夜間中学には基本的に不登校はいないということは、何か魅力があるのだろうと考えたところです。</p>
<p>西田教育長</p>	<p>今後ともご意見をお聞きしながら、様々な部分に生かしていきたいと思っております。中核市教育長会に関する報告の追加でございます。中核市教育長会で、岐阜市が16日間の学校閉庁を行ったことに関する説明がありました。宮崎市の閉庁期間は5日間でしたが、岐阜市は全国で一番の長さです。このことに関する岐阜市でのアンケート結果について説明しますと、休暇をどのように使ったかという問いに対し、休養が77%、家族とのふれあいが50%、趣味が39%、国内旅行が39%、海外旅行8.2%ということでした。この閉庁期間中に、今までは行けなかった旅行に先生方が行けたということでした。岐阜市の教育長としては、教職員が今までとは違う自分の楽しみや資質の向上などの時間をとることができたという点で非常に良かったという報告でした。また、支持率も教職員が92.4%、地域関係者が96.2%、保護者も96.1%と非常に高いです。この理由は、コミュニティ・スクールなどでしっかりと説明されて、地域の方の理解があるからではないかと岐阜市の教育長がおっしゃっていました。働き方改革の中で、他の自治体も様々な取組を行っている状況です。</p> <p>それでは、宮崎市児童クラブ事業利用者負担金徴収条例施行規則の一部改正について」事務局から説明をお願いします。</p>
<p>黒岩生涯学習課長</p>	<p>資料6ページをご覧ください。「宮崎市児童クラブ事業利用者負担金徴収条例施行規則の一部改正について」でございます。内容に入らせていただく前に、教育委員会での児童クラブ関係の事案の取り扱いについてご説明いたします。これまで、児童クラブ関係の事案につきましては、教育委員会の中で、議事として取り扱っておりましたが、本来、児童クラブなど「放課後児童健全育成事業」は、市長の権限に属する事務であり、教育委員会事務局職員が市長部局の職員に代わり事務を執行しております。そのため、今回、教育委員会での取り扱いを整理し、児童クラブのように市長部局の事務を教育委員会事務局職員が代わって執行しているものの規則改正等については、最終決定権が教育委員会ではなく、市長にあることから、今後、教育委員会では議事の中ではなく、今回のように情報提供として、「その他の報告」の中で取り扱いをさせていただきます。それでは、内容についてご説明させていただきます。昨年9月の市議会におきまして、「宮崎市児童クラブ事業利用者負担金徴収条例の一部改正」が承認されました。何点か改正がありましたが、その一つが児童クラブの利用区分に関するものでした。お手元の資料をご覧ください。1現状と課題ですが、児童クラブは毎年、新たなクラブの開設・整備を行い、定員の拡充に努めておりますが、待機児童の解消になかなか繋がりません。そこで、待機児童数の削減を図るために、空き曜日を有効活用し、曜日毎の利用区分に変更し、利</p>

	<p>用申請ができるよう改正をしております。今回の報告は、このことに伴いまして、児童クラブの利用者負担金額徴収条例施行規則の文言を整理したものでございます。資料6ページをご覧ください。中央の表の右側が現行の施行規則ですが、「(1) 通常利用及び土曜日利用」とあります。この「土曜日利用」という文言を削除しました。また、その下の(2)の下線部分をご覧ください。「及び長期休業期間平日利用」という文言は、普段は土曜日だけ利用している子どもたちが夏休み、冬休みは土曜日に加えて、月曜日から金曜日も利用するということを指しています。しかし、利用申請を各曜日毎としたことによって、「長期休業期間平日利用」という区分はなくなったので、この文言を削除します。このような規則の一部改正でございます。説明は以上でございます。</p>
西田教育長	<p>続いて、会次第「6 次回委員会について」、事務局から説明をお願いします。</p>
富田企画総務課長 補佐	<p>次回定例会は、平成31年2月15日(金)、13時40分から15時30分、教育委員会室において、お願いしたいと考えております。</p>
西田教育長	<p>ただ今説明のありました日時で、委員会を開催いたしますので、よろしく願いいたします。</p>
委員	<p>了承。</p>
西田教育長	<p>続きまして、会次第「7 行事予定」について、事務局から説明をお願いします。</p>
富田企画総務課長 補佐	<p>(行事予定説明)</p>
西田教育長	<p>以上をもちまして、第1回定例会を終了させていただきます。</p>